

# 認知症薬に1200億円

初の認知症薬「アリセプト」の売上高推移と新薬の計画



## エーザイ、20年代まで「

## 投資、業界平均の2倍

エーザイは認知症の治療薬創出に2020年代までに1200億円を投じる。18年にも開発する候補薬3本が後期の開発段階に入るため、業界平均の2倍以上の開発費を集中投資する。認知症薬は国内で11年から新薬が出ていない。在来薬にない新たな機能を持つ薬を創り、ピーク時で年3200億円強を売り上げた初の認知症薬「アリセプト」の再来をめざす。

認知症の発症に関わるたんぱく質「アミロイドベータ(Aβ)」を減らし、認知機能の改善を促す薬を開発中だ。16年までに申請に向けた最終段階の治験(第3相治験)を候補薬2本が始めており、18年にも全ての薬が出そう。

第3相以降では1本ごとに800億円強の投資が必要だ。候補薬の一つは、14年に提携した米バイオ製薬のバイオジェン(マサチューセッツ州)が開発。エーザイは共同開発権を持つ。権利を行使した場合に費用が発生する。エーザイの候補薬

はすでに共同開発している。共同開発品は費用を折半して負担する。3本全てを開発する場合は、エーザイの負担は1200億円程度となる。通常、後期の開発に必要な費用は1本あたり200億円程度とされる。エーザイの負担分だけで平均の2倍に相当する大規模な投資となる。

はすでに共同開発している。共同開発品は費用を折半して負担する。

3本全てを開発する場合は、エーザイの負担は1200億円程度となる。

通常、後期の開発に必要な費用は1本あたり200億円程度とされる。

エーザイの負担分だけで平均の2倍に相当する大規模な投資となる。

エーザイは今後、年200億円ほどの負担が発生するとみる。ただ大型の新規投資を抑えて資金を開発面に集中する。研究・開発コストは連結売上高の20〜22%に抑える。15年度は22%だった。

英調査会社エバリュエートによると、認知症薬関連の世界市場規模は15年に約4千億円と11年に比べ約4割減った。需要はあるが、後発薬の投入や新薬が出ない影響が響く。

一方、認知症患者は世界で増える。国際アルツハイマー病協会の調査によると、15年に4680万人だった認知症患者は30年までに7470万人、50年には1億3150万人になる見通しだ。エーザイでは20年以降に競合も含めた新薬の市場規模は1兆円規模になる可能性があるとする。

新薬は進行抑制にとどまる在来薬と比べて治療そのものを高める可能性がある。新薬は原因となる神経細胞を弱らせる毒性のたんぱく質を取り除き、認知機能の改善や治療まで射程に収める。アリセプトは神経伝達物質の分解酵素を抑えて症状の進行を和らげるが、それ以上の効果はなかった。

によると、15年に4680万人だった認知症患者は30年までに7470万人、50年には1億3150万人になる見通しだ。エーザイでは20年以降に競合も含めた新薬の市場規模は1兆円規模になる可能性があるとする。

新薬は原因となる神経細胞を弱らせる毒性のたんぱく質を取り除き、認知機能の改善や治療まで射程に収める。アリセプトは神経伝達物質の分解酵素を抑えて症状の進行を和らげるが、それ以上の効果はなかった。